

議事の概要

(1) 「広島市子どもの読書活動推進計画（第三次）」素案について

資料1・資料2に基づいて、「広島市子どもの読書活動推進計画（第三次）」素案について、概要を説明（林課長）

<質疑等>

（正本委員）

本の種類は何を想定してるのか。

（林課長）

読書の概念で説明したとおり、教科書・参考書・まんが・雑誌を除く図書を想定している。

（齋藤委員）

本を読むことで学校における評価の対象になるのか。

（林課長）

所管が教育委員会の指導第一課、第二課の担当になるので、正確には存じ上げないが、学校現場においては、朝読書や読み聞かせを実施したり、子どもが図書館を訪れて社会見学をしたりするなど、直接評価に結びつかなくても子どもが読書に親しむ活動を学校現場でもやっている。

また、重点施策で話したが、読書活動は全体計画と年間指導計画を小・中・高校でつくっているのもので、学校としても読書に取り組んでいく姿勢はある。

（齋藤委員）

子ども本人にメリットがあるとより効果が上がると考える。

また、本の紹介を毎月作成するなど、子どもたちの興味を惹く工夫が必要だと考える。

（林課長）

現計画においても、発達段階別図書リストを作成しているので、引き続き取り組んでいきたい。

（武鐘委員）

社会教育は学校教育を含まないと聞いたが、本計画は学校教育と密接に関わりがあるのではないか。

（林課長）

社会教育という言葉の概念は、学校教育を含まないが、子どもの読書活動推進計画をつくる上で、社会教育委員の皆さんにも御意見をお聞きしたいと考えているので、社会教育という概念はお気になさらずに御意見をいただければと考えている。

（武鐘委員）

デジタル図書の冊数 112 タイトルは、子ども用のものか。

（林課長）

子ども用である。一般の所蔵点数は広島市の図書館で 634 点所蔵している。

（橋本委員）

ボランティアを一律に確保することが難しいということを感じた。漠然とボランティアを集めるのではなく、どういう役割のボランティアを募集するのかを明確にした上で広報するとよいのではないか。

50代60代で地域の役に立ちたいと考える人は増えている。交通費をサポートするシステムを導入するなど、一般市民が参加しやすいよう環境を整えていく必要があるのではないか。

(林課長)

学校図書館のボランティアは図書の整理等をやってもらっている。役割分担をしながらいろいろなボランティアの方に活躍していただきたいと考えている。学校もボランティアの確保が難しいということを感じているので、改善できるよう工夫していきたい。

(網師本委員)

なぜ広島市の1ヶ月に1冊以上本を読む子どもの読書の割合は、全国平均よりも低いのか。

(林課長)

政令指定都市の中では広島市は中間となっている。大都市になってくると全国値よりも低くなっていく傾向があると思う。そういった中で、全国値に近づけるよう取り組んでいきたい。

(網師本委員)

高い都市の取り組みを取り入れるとよいのではないか。

(林課長)

政令市の取り組みの中で参考にできるものは参考にしている。今後運営していく中できめ細くしていきたい。

(佐々木委員)

集会所にある地域文庫に関しては、中央図書館から月に一度、大人向け50冊と子ども向け50冊の本の入れ替わりがある。月に50冊は非常に少なく感じる。子どもたちに読ませたいと思うのだが、本の量が少ない上に、子どもたちが地域文庫を利用する機会が少ない。

また、児童館に出入りしているのだが、児童館は留守家庭教室を実施しており、勉強が早く終わった子は読書をするように仕向けている。しかし、児童館にある本は、寄贈されたものや昔からある古いものが多く、新しい本がなかなか入ってこない。子どもたちは、古い本はなかなか手にしないうえに、本が入れ替わらないので読み飽きている。

児童館は、学校に比べて本を読む時間はあるが、読みたい本がないため子どもたちは読んでいない。学校は、本は豊富にあるが、読み聞かせのわずかな時間しか読書の時間をとれない。もう少し調査等を実施し、現状を知った上で細かな配慮をしていただきたい。

(小田議長)

図書館司書は減少しており、指定学校に置かれているのみである。図書館司書になりたい人がたくさんいるにも関わらず、図書館司書の配置がない。図書館司書が置かれているからこそボランティアの人が活性化し、子どもに還元されるのではないかと。

また、学校・家庭・社会の連携がとれていないことが問題である。それぞれが点で活動するのではなく、点と点を線で結び、さらには面で活動していかなければならない。社会教育委員が点と点を結ぶつなぎ役にならなければならない。残りの任期は社会教育委員のみなさんと連携して、動きたいと考えている。

(武鐘委員)

小田議長の言うように、自主勉強会をしていきたい。

(小田委員)

自主勉強会はボランティアなので、交通費等は支給されないが、それでも委員が一生懸命取り組める環境を整えていきたい。

(和田委員)

重点施策の目標は達成されているのに、数値の目標は達成されていないのは厳しい状況ではないか。

昨今の社会情勢を考えると、テレビ・インターネット等、子どもの時間の取り合いになっていて、本が負けている状況である。本の販売冊数が減っている中、どういった本が売れているかを考えると、いかに伝えるかが大事になっている。そう考えると、子どもたちに読ませたい本をいかに伝えるかが大事ではないか。時代にあったテーマや子どもたちの生活に密着したテーマを選定し、子どもたちの目につきやすいように並べる。そのときに、司書や教師が子どもたちに読ませたい本を買えるように裁量を増やしたり、司書の技術を向上させることができたりするようにしていかなければならない。計画は良いものだと思うが、運用の仕方を工夫する必要があると考える。

(林課長)

大変参考になる意見をいただいたので、図書館サイド・学校サイドへもしっかり伝えていきたい。

(正本委員)

パソコンで本が読めるようになり、本自体が多様化している。そこで、本をどういう場でどのように見せていくかを考えなければならない。学校であれば今までは図書室で本を読んでいたと思うが、パソコンのある教室で本を読むようになってもよいのではないか。教室の使い方やクラスごとの本の掲示の仕方の工夫も必要であるとする。図書館は自分で本を探さなければいけないので、もっと身近に本が子どもたちの目に触れることが出来る場を社会の中でつくっていかなければいけない。

(橋本委員)

社会全体で本を読む場を広げていかなければならない。また、女性だけではなく、60代70代の男性にもボランティアとして活躍してもらいたい。そのためには研修を充実させ、新しい人材を開拓させることが必要ではないか。

(小田議長)

子どもたちにとって本を読むことが楽しいと思えるようにしていく必要がある。また、本を読むことで子どもたちが自分の将来につながると感じられるようにしていけば、子どもの読書活動を促進していけるのではないか。

(網師本委員)

1ヶ月に1冊、どの本を読んでもよいというわけではなく、読ませたい本というものがあると思う。たとえば、空き教室にパソコンを設置して、その中におすすめの本をダウンロードしておき、電子書籍で読むことができようになるといったように、読ませたい本を積極的に子どもたちに薦める取組みがあってもよいのではないか。

また、子どもを見ると、本を読むことを嫌がるというよりは、電子メディアのように動きがある方がおもしろいため、電子メディアに興味を惹かれているように感じる。惹かれるものがゲームではなく、少しでも読書と同じような効果が期待できる電子書籍を勧めていきたい。子どもに読書を勧めるためには、書籍をたくさん購入することも一つの方法だが、電子メディアの使える環境を整えていくことも効果的な方法であるとする。

(齋藤委員)

タブレットを試験的に使い本を読む機会が出来れば、子どもたちの興味が惹かれると思う。予算はかかると思うが将来的にはよいと思う。

(武鑑委員)

今後のスケジュールにある市民意見の公募とはどのような形で行われるのか。

(林課長)

広報をして市の広報誌である市民と市政に掲載するほか、広島市のホームページに掲載する。

(小田議長)

最後に谷川次長から意見をいただければと思う。

(谷川次長)

大変貴重な意見を感謝する。委員の意見を聞く中で、実際の現場の意見を聞かなければならないと感じている。今後は計画に書かれていない、子どもが本に触れるための工夫など、もう少し細かい現場での動きを考えていく必要がある。そのためには、学校・家庭と連携しながら計画を進めていきたい。

(2) 全国社会教育研究大会及び中国・四国地区社会教育研究大会の報告

- ① 資料3-1に基づいて、全国社会教育研究大会大分大会の概要を説明（橋本委員）
- ② 資料3-2に基づいて、中国・四国地区社会教育研究大会山口大会の概要を説明（佐々木委員）

(3) 閉会

(小田議長)

本日は熱心なご審議に感謝する。以上で閉会とする。